（第三種郵便物認可）　昭和十年十月二十三日
昭和十四年一月二十六日　夕刊　［木曜日］　第五千四百三十一號　［一］

老臺

山田勇太郎

——◇——

新年になつて或る人から山田勇太郎老臺といふ宛名の手紙を貰つた。オヤ變だなに抱かれて祖母が來客と話の時だ。今は亡き祖母の膝あと思つて見直しても老臺の中に私は丁度五才になりには間違がない、爺臺とやましたよといつて詠嘆ら！賢臺とかいふのは貰つたが口吻を洩らしたのを覺えてゐる。そして自分は膝の老臺といふ敬稱は始めてだ而かもその差出人といふのは極めて謹直な相當の地位五十とくらゐのは偉いおばあ年配の人で洒落や冗談をさんだなあと子供心に考へいふ人ではない、さてはもた事であつた。その時の來れも老の部類に入つたのかなあとヒヤリとした樣な氣客は誰であつたか又その節がした。そのとき老臺は御尊だけが妙に印象に殘つて敬稱だらうか、この場合と言ふ意味はないがら言つたのだから老臺と敬稱されるのも當然だと知れぬ

——◇——

自分が卒に御厄介になつたのは丁度一昔前だ。その當時と經濟には少しも變りがない否もつと〳〵若い時分あつたなら、と、それが光りがかがやかだらう。いまもそれを考へて、ぼんやり雨を見てゐる彼だつた。

（終）

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晩北の風薄曇
明日南の風曇時々晴

夕刊

一月二十五日發行

定價（金六錢）　郵金五錢

東京朝日（日曜祭日休刊）　東京振替口座一〇六・五八五番

春勢物語（5）

表れた歌

丘生

さて作者は、雨を突然降らせてくの富士山へ轉じた『富士の山を見れば五月のつごもりに雪ぞ降りける』しらぬ山はよじの都に於てはもとよりかつて高い山を見るべくもなく雪の降るらも

『ふじ』は『不時』で時を知らない富士山は一體今五月の晦日に、どう間違つて、鹿の子まだらに雪を降らせてゐるのだらう。と、言つてゐるのだ。と、言つて作者が殊更富士の山に驚嘆してゐるところがある。京都に於てはもとよりかつて高い山を見るべくもなく況んや五月末に雪の降るのを見ては、驚嘆せざるを得ないであらう。蓋し、京さつきまで庄太郎が遊びに來てゐて、例の輕口で賑やかに騒ぎ立てゐるのだ。

『よ　師走なれあ』。

雪の降るらも

『ふじ』は『不時』で時を知らない富士山は一體今五月の晦日に、どう間違つて、鹿の子まだらに雪を降らせてゐるのだらう。と、言つてゐるのだ。と、言つて作者が殊更富士の山に驚嘆してゐるところがある。京さつきまで庄太郎が遊びに來てゐて、例の輕口で賑やかに騒ぎ立てゐるのだ。

『よ　師走なれあ』。

愚譬無道

（11）

久我莊多郎

香川三十代書

『天の巻』

彰義隊潰滅（十二）

夜になつたが、雨は止まなかつた。

辰年は雨が多いと年寄りがいふその辰年の慶應四年雨の多いのに不思議はないとしても、よくも毎日、かうも飽きずに降つたものだと思へるほど、この春先から、昨日も降つた、今日も降る——と雨に明け雨に暮れる毎日だつた。

深更、惣介は、書齋の窓から、そのくらい雨の足を見てゐた。

『わしに、專藏と同じの一途な心があつたなら……』

はなく〳〵しく及をふるつてゐる自分の姿が見わる氣がした。

惣介は、だから專藏と秋を分つことになつたのに對して、別に何の悔ひも抱いてゐなかつた。が、その自分ゆゑに、妹の、茅江の戀に惱んでゐるのだ。

『よ　師走なれあ』。

焚火

大草　寛

いてついた砂濱に
赤々と焚火はもえて
外套を着た女に
鉢卷の男もある
皆一樣に手をのべて
寒さを忘れようとする
ばら色の海はさめて
渚邊に朝は起き上る
あゝかくも愁ひ悲しみの
うづまる渚の砂に
漁村の冬をめぐりて
まどかする人の美し

冬日抄

青綸　洞子

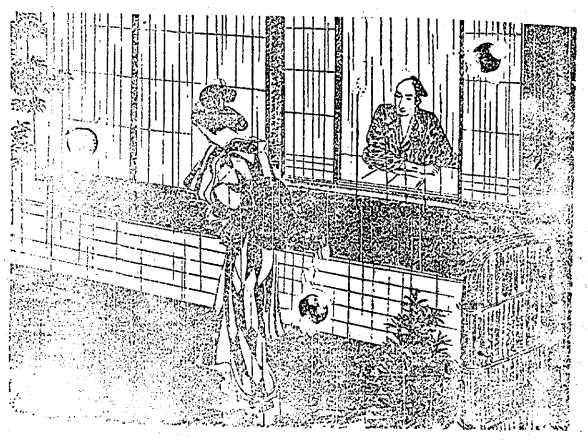
暮れ足早き冬の日や
いつかあたりも黄昏て
樂しきまどの夢つゝ

冬の夕べ

○

たゞそこに朝の蝶の葉のいろのうるやかさだけがあつた冬晴

士岐紅二



酒ハ白菊

（酒之王）

君寛

クヽトク

秋田・伊藤本家吟醸

特約店　白菊廣瀬支店

平市田町

電話五四番

外科一般

內臟外科
肛門病科
皮黴科　專門
泌尿生殖器科（婦人科性病科）

平市字鎌田町

白土醫院

電二七九

（入院隨意）

吉田眼科醫院

醫學士　吉田久雄

平市紺屋町　電話六八番

高島屋の冬支度

男女學生服
大特賣

（高）

服寒防の冬

品製既ニ並文注

高島屋

平市二丁目

電話三八六番

北川外科

外科一般　內臟外科
レントゲン科　泌尿器科

血液檢査每日　平市新川町〔電四六四〕
◎入院隨時　醫學博士　北川芳夫

診療時間　夜

皮膚科泌尿器科性病科專門

診療時間　午前八時ヨリ午後九時マデ

平市田町

江尻醫院

電話六九二

入院隨意

醫學博士　江尻伊三郎

銃後の皆樣におすゝめする

（糸イラズ）

綿布、絲糸、暴風の折柄古き破れたる足袋、靴下メリヤス、ジヤケツ、其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひろく國家の經濟は莫大なものとなりませう。男子の方や御子樣方でも容易に修繕出來まして糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい。

（定價二十錢　三十錢）

平市古館治町一〇（縣社下）

阿康藥局

電話四四番

振替東京三〇〇六五番

產婦人科

井坂醫院

平市田町　電五五九

電話五九二番

に變りました

食事喫茶
喫酒飯場
たを

喫茶

レストラン　サロン

平市銀座街

高久病院

平市田町（電話五三一番）

醫學士　高久忠
新潟醫專卒　赤羽潤
藥劑士　佐竹榮雄

內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科

（看護婦至急募集）

新車のお知らせ

斷然!!!　乘心地良い!!!

三七年型フオード

入車いたしました。

是非！御試乘の程を！

市內四丁目

スヾキタクシー

電二一七番

お醬油は……ヤマフル

醬　豆

味噌醬油
たひら正宗
雜節　食料品

山崎合名會社

福島縣平市

電話（營業部一〇番　本店二七番）

明治生命磐城代理店　山崎與三郎

路線の固執運動で當局の關心薄まる
平小鐵に延期の暗翳

平・小名濱を繫ぐ平小鐵道は長年月に亙つて大祭を投じた小名濱商港の機能ヶ最極限に發揮せしむる施設として、將に畫龍に睛を點ずる所以であり 先年來路線ヶ當局の選擇に委せ專心急速實現を目標とする所謂白紙派と片濱廻りを固持する兩派と對立し大々運動を續けられて來たが鐵道當局としても亦前記の理由から之が實現を急がねばならぬと云ふ見解の下に獨自の立場から最良の路線ヶ決定し、近く着工の機運に漕ぎつけたらしい形勢に一部から非常な歡喜を以て正式發表の日を待望されてゐた處、過般來再び復た路線に就ての運動が開始されたので當局としても所信に向つて斷平邁進するの權能があるとは謂へ、滿更地方民の動向を關心の外に置く事も出來ず、此際相容れぬ兩派の相剋摩擦によつて或種の風波を捲き起さしむるが如き、擧國一致の時局に處し斷然避くべきであるとの見解から此際一と先づ計劃を休止し人心の推移に就て暫く日和見の態度に出づべく鐵道首腦部間では既に今後或る期間の延期を決意したと傳へられ一日も速に之が實現を念望しつゝある公正な地方有識者間に早くも深刻な暗翳を投ずるに至つた

日水專用線好轉
近く許可の模樣だが 小名濱の死港舊態依然

關係地方の平和を保つ爲に遺憾無き迄地方民の動向を察知せんとする當局の愼重態度から平小鐵道が延期されるゝ結果隨て小名濱町の日本水素工業株式會社出願の局工場、泉驛間の專用線敷設は、同工場の製品が來る四、五月頃から生産輸送さるる關係から、その許可に一日の促進を來し近く指令あるは殆ど斷定の事實と觀らるゝに至つたが、由來小名濱商港は單なる日水の生産品を背面物資とするが如き莫爾たる計劃ではなく完全なる當初計劃の平小鐵道が敷設されぬ限り所詮死港に終らねばならぬ運命に置かれ、果して何れの日に於て地方産業開發の使命に邁進出來るか差當り逆睹するに困難な形勢にあるを悲しまれてゐる

經濟警察協議員決る

統制經濟運營を圓滑ならしむるための取締當局と業者間の連絡融合機關『經濟警察協議會』協議員中地方關係者左の如し

（協議員）平市長青沼鉾太郎、同山崎與三郎　勿來町赤津庄兵衛、工業組合中央會支部副支部長木村清治、縣自動車協會副會長野崎蔵藏、縣鋼材特約店商業組合理事長諸橋久太郎、縣織物商業組合理事柏原幸次郎、昭和人絹植田工場長鈴木本一

賣店規約設定　公會堂內の設備

昨報、市公會堂內の新設備に關しては昨二十四日委員會を開いて協議の結果階上の商品陳列所に使用する陳列戸棚は木工組合に寄附方を交渉、又賣店は規程を設けて期間等を定め希望者を抽籤決定する事となつた

軍刀鑑識日繰上げ

平地方の日本刀の鑑定會は二十八日行はれる筈であつたが鑑定官一行が前日の二十七日午後一時五十一分着で來平することに變更されたので同日午後二時から市會議事堂で行ふことになつた

傷病軍人相談所設置

平職業紹介所は既報の如く新廳舍に二十三日引き移つたがそのあとは市社會課と共に新設の傷痍軍人身上相談平支所に當てられる、同所は所員も該當軍人の身上に理解ある傷痍軍人が任命され近く店開きの運びに至るだらう

協和會旗調製

內鮮融和を目的とした平協和會では此程會員の醵金によつて會旗を調製、近く樹立式擧行

業の旗地に『協和』と染め拔き『平協和會』の署名は本田平署長の筆に成るもの

二少女の篤行

市內田町藝妓置屋桝美家こと坂本シナさん方の櫻菜ともちやん、木村千代子ちやん兩名はお小遣を儉約した金二圓を『兵隊さんのご家族にあげて頂戴』と市役所寄托

時局を利用
只飲み男擧げらる

安達郡上川崎村生れ服部卯吉(五七)は二十四日夜內郷村料理店撥山筆三郎方に登樓『俺は日露戰役の勇士で二百二十圓の扶助料を貰ひ目下仙台病院に入院してゐるが一寸休暇で來た』とゴマ化し十六圓餘の只飮を働いて平署へ

銃後は重し消防手
毎晩夜警に出動す

湯本町消防組は七十三才の老軀に鞭つ井坂組頭以下組員一致の活動を續けてゐる模範消防組であるがその下にゐる同町第一部消防手安田重雄(三五)君は辰の口夜警詰所の人員が少數手不足なので舊臘十五日以來每夜出動、三月末でやり通すと意氣込んでゐるので井坂老組頭も感服、近くその功を表彰する

。。。。。鍛冶工組發起人會

地方の鍛冶屋さんから結成することゝなつた石城鍛冶工業組合設立發起人會は二十五日午後二時から平市會議事堂に開き、青木捨吉氏外同業十四名出席

新事業は勿論取止め
歲入、出共消極編成
縣當局の指示で町村豫算仕上げへ

郡下町村の十四年度の豫算編成季に當面し時節柄節約主義を吹き込まうとする縣の新豫算指示會は昨二十四日平市會議事堂に開かれ、縣地方課から出張の會田屬外關係者によつて持寄らせた新豫算書を各町村每に檢討種々指示した外歲出、入兩方面に關し大要左の如き縣の意向を表明、時局に適應した新豫算の再編成を慫慂した、尙小名濱方面の町村に對する同樣指示會は今二十五日小名濱町役場で開かれ又縣下四市の打合會は既報の如く來る三十日郡山市で開かれる筈である

△歲出＝時局柄出費多端な折柄だけに個々の町村については十三年度に比し一概に減額は困難であらうが縣下を通じて大體前年對比五分減の見込みで進んでゐるから新規事業等は勿論見合せ極力節約を期せられたい

△歲入＝先づ十三年度當初豫算より減額を前提とする、その內容については各町村每にこれを檢討して夫々編成當事者に充分指示し萬已むなきものを除く外は極力減額すること、殊に特別稅戸數割の如きは昨年度當初豫算額より增額されるやうなことがあつてはならない

。。。。。縣稅務事務監査

平稅務出張所昭和十二、三兩年度の事務監査は縣藥谷主事齊藤佐藤屬により十日から三日間行ふ

獻金と慰問袋　高久

高久村大和久根岸婦人會長矢吹ユキさん外三十六名は十九圓約同村原青年團長箱崎熊藏氏外十三名は同青年團が模範青年團として村から表彰されて贈られた金十圓を何れも恤兵金として村役場へ

○

夏井村では村民の赤誠こもる慰問袋六十個を調製、今二十五日發送

鐵管代の暴騰で工事個所減少か
市水道部の新豫算

市の十四年度豫算は縣の緊縮方針に基いて目下各課毎に最後の審議を行つて居るが時局柄出費多端の折柄だけに目新しい事業もなく、就學兒激增の對應策たる第五小學校新築費十萬圓の計上要求が唯一の新事業と目されてゐるがこれとて未だ決定には至らない、水道部の新豫算も何せ鐵管が一躍從來の約四倍程度に奔騰してゐる現況なのでこの豫算の編成には眞野主任以下相當頭を惱めてゐるものゝやうであり、總豫算の削減等で十三年度に較べて結局工事個所の減數は免れないものと見られてゐる

工事の大部分が鐵管埋かへ工事で新規敷設は鎌田町白土醫師裏から本通りへの延長其他極く小範圍に止められるだらう

再交涉成らずば縣の裁定
纏らぬ日立營收稅問題

既報、日立電力株式會社に對する營業收益稅附加稅步合協定に關する第二回合同會議は一昨二十三日平市會議事堂に平市外關係町村が會同審議したが配電區域たる湯本町と發電所々在地たる双葉郡龍田村との見解の相違からまた〱物別れとなつた

今後は赤井村長から自主的に交渉を進める關係から次回會合は暫く見合せ若しこれでも纏らぬ場合は縣の裁定を仰ぐ外あるまいと云はれてゐる

。。。。。市方面委員會

二十六日午後一時から開き寄附金並に寄附米採納、其他を協議舊歲末に當つて極貧者の救濟に乘り出す

平保健所開所式
けふ明朗裡に擧行

縣立平保健所の落成式は既報の如く今二十五日午前十時から市內八幡小路に新築の香高い同所樓上會議室に於て君島知事臨席の下に衛生課松本警部擧式を宣し、縣社子鍬倉山部神官以下三名により、獻饌、降神、祭詞かたの如く

君島知事、青柳警察部長、縣內縣議代表、青沼市長、宮澤官公衛學校長來賓代表の順序にて玉串奉奠を了り青柳警察部長は知事代理として

國民の健康は國家活力の源泉で産業の振興國防の強化は勿論國民精神の健全乃至國民生活の安全は悉く健康を基調として始めて完きを得るのである今次の支那事變勃發以來時局は益々多事で擧國緊張を要し保健行政の重要性が頓に強調せられ衞生施設の整備擴充は愈々需要視せらるゝに至つた。須らく時局下に於ける國民の健康保全と體位の向上を圖られ東亞永遠の平和確立と八紘一宇の大事業に寄與せられ度い云々

戰時下の國民意識を保健所將來の活動に歸調した告詞を朗讀して祝詞に移り廣瀨厚生大臣(代) 青沼市長 野崎市會議長 本田署長 篠山學校長總代 伊藤町村長會長(代) 太田縣醫師會長(代) 根本縣藥劑師會長 淸水郡醫師會長 何れも國民體位の向上に對する保健所の眞使命を強調し青沼所長の挨拶にて式を閉ぢ少憩正午近く同所に簡楚な祝宴を張り參列百餘名極めて明るい氣分の裡に零時半散會した

。。。。。物價指導委員會

來る二十六日午後一時より平警察署會議室に平物價指導委員會を開催舊年末年始賣出實地指導勵行その他協議

。。。。。橋本新署長赴任

平署次席から石川署長に榮轉の磐部橋本延秋氏は今二十五日午前八時三十分發磐越東線で多數の見送りを受け赴任

。斷水。

市內左記町區は水道工事のため二十五日午後九時から翌朝三時迄斷水 十五丁目、中町、堂の前の各一部

辭令

命平職業紹介所雇　淸野勝利　江尻ミヤ子　新妻サタ子

平市慶弔錄

△出生　市內禰宜町鈴木哲夫氏三女邦子ちやん、本籍市內鎌田町大阪市港區磯路町居住岡部久太郎氏長男久雄君

○婚姻　前記岡部久太郎氏　大阪府北河內郡四宮村上馬伏巳之吉四女樋口ミツエさん

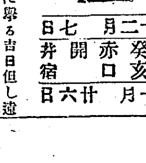
陣中を聽く
(322)

可愛い子供相手に日支語の交換教授
四倉町出身　門馬敏勝君(通信)(下)

炊事をするにも水は無く時々軍の救水車で補給して呉れますが、部隊が大きい爲に、ほんの僅かしか頂けず、水では實に惱されました、水道が出るようになりやれ嬉しやと思へば、水にはコレラ、チフス菌等投込まれて、生水をのむと十人に二人位はそうした病氣にかゝりました、でも此の頃は部隊も多くなり警戒も嚴重な爲にそうした病氣も少く水には非常に樂になりました。

此の○○も此の頃は大分穩やかになり日本店、支那人店出來又、支那人も日に增し歸つて來、今は先日のような生々しい空氣は何處へやら時々盲人の音樂が聞へて來ます。盲人が五六人で三味線ともつかずヴアイオリンともつかぬ、變な樂器をひきながら部隊部隊の角に立ち、其の音は實に良く聞へて來ます、なんだか意味はわからないが淋しく聞へたり又賑やかに聞へて來たり實に上手なものです支那人も聞いて居りランボ〱(良い〱)やつて居ります。

支那人子供は覺えが良いようです、私も少し支那語を覺わました、言葉で通じぬ時は字を書くと讀み方はちがへども意味は同一であり、良くわかります。私は非常に子供が好きで、暇さへあれば子供を相手に日本語を敎へたり日本の歌を敎へたりします、子供は良く覺わ、今では『兵隊さん菓子下さい』なんて遊びに來ます。ショウハイ(子供)日本の歌をやれと云ふと『モシモシカメヨ』を間違ひ無く終り迄やります。手馴付けて見ると實に可愛いゝものであります。



舊十二月七日	癸亥	赤口	開	井宿
木曜				
新一月廿六日				

▲一白 名利共に舉る吉日但し遠行は後日にすべし▲二黑 失意の底より追々とうき上る活氣の滿る日▲三碧 質朴を主とし內を守るべし外に在ては不利▲四綠 さまたぐる者もあれども亦すくひの者もあるべし▲五黃 進退共に其の宜しきを得るは飾りを去べし▲六白 作戰計謀は成りても實だんに乏しきやうな日▲七赤 內外共に無事にして目上とも親しみ有べし▲八白 築するよりも路事調子好く運び行く日なり▲九紫 進出せんとすれば却て擊退せらる守るが勝

代理店　雲州神國印ソロバン　優勝印高級ソロバン　ニコ〱印高級ソロバン　ドンコ帳簿。ライカ帳簿　ウエル萬年筆　ライトインキ　ムツソリイニペン　ゼネラル・カーボン紙
魁文堂

夜間診療
胃腸性病
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
(見習看護婦募集)
松村胃腸性病科醫院
(平市南町電一〇七番)

藥品榮養劑飼料各種
北里研究所製ジステンパー豫防液
東西製藥所製綜合ビタミン劑
ヴイベリン末(動物わかもとの稱あり)
フイツシール榮養魚粉末
病理研究、診療榮養劑の配劑飼育指導の需に應ず
擔任技師　獸醫師
福島縣磐城種畜場
內鄕村堀(平市外)
出張所　平驛前　電六四八番
分讓所　東京市淀橋區下落合
國策アンゴラ兎採毛協會
乾產業會社畜產部
平產業養狸組合事務所
加奈陀系銀黑狐　純血エゾ種狸　東北系多產種狸　ブイツチ日本テン　大型種兎アンゴラ兎　雉子家禽各種

精神病科　腦脊髓病科　神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
電話九二五番
入院隨時　院長　醫學士　金森九郎

おでん、やき鳥
小鳥燒も初めました。
お酒のあとにおけさめし
おでん　茶めし　酒の家
味鄉
平市三田小路(三丁目裏)